

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	橋りょう長寿命化対策事業			事業番号	32-101
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	土木部	小川 博志	道路整備課	石井 渉	

計 画 (Plan)

総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり	
		施策展開の方向	2	便利で機能的なまちをつくる	
		施策	32	公共施設の効率的な活用と維持管理・保全の推進	
予算事業名	橋りょう維持管理費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	-
関連法令等	-				
国・県の計画等	社会資本総合整備計画			計画期間	平成25年から平成29年(想定)
関連個別計画	地域防災計画			計画期間	-
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	管理する橋りょうは、日常パトロール等により適切な維持管理に努めてきました。しかし、高度経済成長期に集中して整備されたため、今後、建設50年を経過する高齢橋の割合が急速に増加し、老朽化による架替え費用が増大することから、従来の「事後保全」から「予防保全」へ管理方法を転換を行います。「橋りょう長寿命化修繕計画」を策定し、予防的修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えに係る費用を、効率的な管理を行いコストの縮減を図ります。				
目的 (何をどうしたいのか)	・「橋りょう長寿命化修繕計画」の計画的な実施により、従来の事後的な修繕や架替えから予防保全的な修繕及び計画的な架替えに施策転換し、結果として橋りょうを長寿命化することで架替え費用を含めた総合的な維持管理費の軽減・平準化を図ります。 ・橋りょうを耐震補強することにより、震災時に最重要路線となる緊急輸送路などを確保し、市民の安全・安心を推進します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	予防保全的な修繕及び計画的な架替えを進め、安全で円滑な交通環境へ対応することで、快適で暮らしやすいまちをめざします。震災時に、緊急輸送路などを確保し、市民の安全・安心を推進します。				
事業内容 (手段、手法など)	・橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、橋りょう修繕・耐震詳細設計の実施や、6橋の修繕・耐震工事(小田原・厚木沼目陸橋(耐震)、同池端陸橋(修繕)、歌川橋、三間橋、道灌橋、市米橋)及び対象橋りょう104橋の定期点検実施に取り組みます。				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	調査設計	(調査設計実施)			
	修繕工事	修繕工事実施	修繕工事実施		
定期点検	—		定期点検実施		
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	橋りょうの修繕及び耐震化済みの橋りょう数	2橋	8橋	10橋	



事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	道路法・同法施行規則に基づく橋りょう等の定期点検・診断等の実施は、神奈川県メンテナンス会議において県下統一された点検要領に基づき、複数の市町村の点検業務を一括発注することにより、コスト削減に向けた取組を進めます。		
実施方法 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> すべて直接実施 <input type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容
実施結果	項目	年度	
		28年度	29年度
	調査設計	(調査設計実施)	調査設計実施
	修繕工事	修繕工事実施	修繕工事実施
	定期点検	—	定期点検
実施した取組の内容	設計調査については、1橋の調査設計業務(木津根橋(市道80号線))を行いました。 修繕工事については、1橋の修繕・耐震工事(旭橋(市道50号線))を行いました。 また、定期点検については、180橋の定期点検を行いました。		
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度
			28年度
			29年度
	橋りょうの修繕及び耐震化済みの橋りょう数	2橋	7橋

年度		28年度 実績				29年度 実績			
事業費合計 (a)		234,596	千円	99,522	千円				
内訳	国県支出金 ①	128,227	千円	54,366	千円				
	地方債 ②	103,700	千円	17,900	千円				
	その他特財 ③	0	千円	0	千円				
	一般財源 (a)-①-②-③	2,669	千円	27,256	千円				
国県支出金の内容		防災・安全社会資本整備交付金(補助率:国5.5/10、市4.5/10)							
コスト	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無	前回の改定時期					
		その他							
人件費	正規職員	0.32	人	2,768	千円	0.32	人	2,794	千円
	その他の職員	0.00	人	0	千円	0.00	人	0	千円
	人件費合計 (b)	0.32	人	2,768	千円	0.32	人	2,794	千円
トータルコスト (a)+(b)		237,364	千円	102,316	千円				
単位当たりコスト	対象数	定義	市民	単位	市民	単位			
		対象数	101,635	人	102,037	人			
		総事業費／対象数	2,335	円	1,003	円			

↓ 評価 (Check)へ

評 価 (Check)

進捗状況 [選択・記入]	<input type="radio"/> 計画どおり (A) <input checked="" type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	B	左記 判断 理由	橋りょうの修繕・架替えに係る費用の縮減・平準化を図るため、橋りょう長寿命化修繕計画に基づく修繕・耐震詳細設計を2橋実施し、1橋の修繕・耐震工事を実施しました。
実施水準 [選択・記入]	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都 市の 事業 内容 等	平成24年度に橋りょう長寿命化修繕計画策定について、県内20市町村(11市、8町、1村)で統一を図り、伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画を策定し、事業を実施中です。
有効性 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記 判断 理由	橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、平成25年度から平成29年度まで14橋の修繕・耐震詳細設計の実施及び、8橋の修繕・耐震工事が完了することができました。
効率性 [選択・記入]	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である(C)	A	左記 判断 理由	国の防災・安全交付金を活用し、効率的に事業を実施することができました。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)

事業推進上の課題	伊勢原市橋りょう長寿命化修繕計画に位置づけられている橋りょうが104橋あることから、着実な事業実施に取り組む必要があります。
次年度以降の取組の方向性	道路法・同法施行規則に基づく橋りょう等の定期点検・診断等の実施は、神奈川県メンテナンス会議において県下統一された点検要領に基づき、複数の市町村の点検業務を一括発注することにより、コスト縮減に向けた取組を進めます。
所管部長による総評	橋りょうの老朽化が進み今後の修繕・架替え費用の急増が予想されるため、限られた財源の中、効率的な橋りょう維持管理の取組が求められています。長寿命化やコスト縮減のため、劣化顕在化後に行う「事後保全の管理」でなく、予防的修繕で経済効果を図る「予防保全の管理」を着実に実行する必要から、当面は緊急輸送路等に位置づけがされており、耐震等早急な対応を必要とする橋りょうに対し、引き続き、本事業を推進すべきと考えます。